

ユネスコスクールのまち おおむた

昨年度末「ユネスコスクールのまち おおむた」と書かれた旗が配布されました。各学校では、玄関口等に掲げられていることと思います。

これは、大牟田市小・中・特別支援学校の市内全校がユネスコスクール加盟校としてスタートし、いよいよ本年は保護者・地域へ発信する一つとして作成されました。

そこで、これから取り組まれる活動の紹介を、どのような方法で発信できるか考えてみました。

<発信方法として>

①学校だより・学年だより ②学校ホームページ ③Mボード

④学習発表会等 ⑤地域・保護者の参加体験型 等

各学校で工夫されながら積極的な発信をしていただければと思います。

ESDのキーワード 「つながり」

ESDの視点に立った学習指導を進める上では、教材を内容的・空間的・時間的につなげること、学習者同士、学習者と他の立場・世代の人々、学習者と地域・社会などをつなげること、身に付けた能力・態度を具体的な行動に移し、実践につなげることが大切です。

今回は、人の「つながり」について説明をします。



人のつながり

ESDでは、学習の過程において、自分と他者とが時間と場を共有しながら互いに学び合い、つながり合うことが大切です。

そうした過程の中で、他者との対話やコミュニケーションの大切さを感じ取ったり、他者の活動に共感したりしながら、それらに必要な能力・態度を身に付け、さらに新たな考えや行動を生み出していくこととなります。

そのためには、児童生徒同士の「つながり」を取り入れた参加体験型の学習を展開したり、地域(身近な地域だけでなく、国内や海外、とりわけ発展途上国も含めて)との「つながり」を図りながら、多様な立場や世代の人々との「つながり」が体験できる場を用意したり、さらには、発達の段階に応じて、将来世代や過去世代との「つながり」も想像させたりするなどの工夫をすることが必要です。

大牟田市立白川小学校の実践

一人暮らしのお年寄りへの「お手紙渡し」を通して

白川小学校では、運動会と表現発表会の招待状を校区に住む一人暮らしのお年寄りに届ける「お手紙渡し」の取組を行っています。

5・6年生がグループごとに各地域に分かれて民生委員の方々に案内していただきながら一人暮らしのお年寄りを訪問し、1～4年生が書いた招待状を手渡します。

校区に住むお年寄りに関わることの大切さに気づかせ、関心を深めさせています。



大牟田市立松原中学校の実践

大牟田と京都の比較を通して

2年生の総合的な学習の時間で、大牟田市内の文化財や施設などを取材して回る自主研修を行いました。宮原坑や万田坑、三池港を始め、次世代エネルギー関連施設などを幅広く取材しました。また、修学旅行では自主研修で京都市内の様々な文化財を見て回りました。

この2つの自主研修を通して大牟田と京都の比較を行い、大牟田市に修学旅行を誘致するために必要なことを考える時間を設けました。大蛇山をアピールすることや交通手段の整備など、様々なアイデアを考えることができました。将来、考えたアイデアを実現させるような人材が育てば、すばらしいと考えています。

